様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １７ 日現在

機関番号：３４５０４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2023
課題番号：１９Ｋ００５３８

研究課題名（和文）大日本帝国と李垠―朝鮮最後の王から見た日韓の比較文化研究

研究課題名（英文）Eun LEE,who was the last king of Korea, in the Japanese Empire - A comparative study of the cultures in East Asia

研究代表者
李　建志（LEE, KENJI）

関西学院大学・社会学部・教授

研究者番号：７０３２９９７８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究はおおむね順調に進んだ。本務校のサポートも力強く、おかげで李垠の評伝を全４巻中３巻まで書き継ぐことが出来た。惜しむらくは、このあと李垠の1921年以降の活動や行動についてまとめることが、研究期間内にはできなかったということだ。しかし、これも現在原稿を書いている途中であり、本年度内には研究書として公刊することが出来るだろう。
　5年の研究期間を通して、貴重な記録、文献などを手に入れることが出来たことは、すべて科学研究費の研究助成あってのことであり、その意味では研究助成を最大限有意義に使うことが出来たと言っていい。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　本研究は朝鮮最後の王・李垠の人生を詳細に読み解くことで、近代における日韓文化交流を立体的に描くことが目的である。その際、李垠が生きた1897年から1970年までの激動の日韓関係を「その時代ごとの空気」に照らしながら、浮き彫りにすることを旨とした。例えば、李垠と李方子の結婚は俗に「政略結婚」という印象が強いが、李方子の日記を参照することで、二人の結婚は当時の朝鮮王族や皇族の中でも珍しい、恋愛結婚と言っていいほどの純愛であったことなどを発掘したのは最大の成果のひとつであり、また李垠の父・高宗の死は日本による暗殺などではありえないことを証明できた。もちろん、李垠の長男・晋も病死であると証明したい。

研究成果の概要（英文）：This research has been going so well. The university's staffs who I belong to supports this research their best. Therefore, I could write critical biographies about Ewn LEE, who was the last king of Korea, until three-forth. Unfortunately, I can't write his biography to the end, his latter half of life after 1921. However, I am writing now, also will publish that in this year.
For 5 years research, I picked out some dairies and letter which haven't known so till now. I thank to this foundation of ministry of education, culture, sports, science and technology. And I can have worked this opportunity my best. So, I thank the ministry approved me this foundation.

研究分野：韓国朝鮮地域研究

キーワード：朝鮮半島　日韓文化交流　朝鮮王公族　皇族　李方子　韓国朝鮮文化　韓国朝鮮文学　地域研究

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

本研究代表者（李建志）は、朝鮮最後の王である李垠（り・ぎん／イ・ウン）については、よく知られているようでいて、実はあまり深く研究されていないことに気付いた。そこで、多くの謎がある彼の人生を、当時の記録を深く読み込むことで、今まで知られてこなかった李王家の存在およびその意義を深く探求することとした。本研究が李垠の生涯のみならず、近代の日韓文化交流、そしてその時代の「空気」を再現することで、より立体的な研究とすることを目指した。

具体的にいえば、韓国での韓国史研究や日本での朝鮮史研究など、朝鮮半島地域研究そのものが、日本の植民地支配とたたかった者をより評価し、李王家の人びとのような対日妥協的な人びとを無視するような傾向があったのだが、それでは対日妥協的な人びとに思想がなかったのか、その生活や行動は評価してはならないのかという問題へと漂着するだろう。それを打破することが、今回の科学研究費研究課題をはじめた背景としてあるのだ。

２．研究の目的

本研究は、李垠の生涯のみならず、李氏朝鮮の王室やその政治的な思惑、そして日本と朝鮮の関連性に関して、深く探求することを目的とした。なぜなら、今まで誰も参照してこなかった公文書、あるいは私的な日記類などを本研究で交付された研究費によって閲覧、購入ができたため、これらをより分かりやすく、また多くの読者に興味を持って読んでもらえるような内容へと昇華させようとした。その結果、1900 年代や 1910 年代、1920 年代の朝鮮や日本の文化的な「空気」を読み込むことがより良いと判断したため、李垠の生涯についてより深く、そしてより広く考察することとした。

このような目的で研究を進めれば、今まで注目されてこなかった李垠の父であり大韓帝国皇帝であった高宗と日本の確執、そして高宗と李垠の関係性などを立体的にあらわすことができると確信していたが、期待以上の結果が出たと自負している。

３．研究の方法

第一の方法としては、今まで誰もきちんと読んでこなかった李垠の父である高宗の側近が残した記録を読み込むことからはじめた。その上で、今まで誰にも顧みられなかったその他の手書きの日記類、商店や当時の学校の記録、日本陸軍関係の記録などを幅広く手に入れ、そして読み込むことを第二の方法とした。

このより深く、そしてより広くその時代の李王家や日本陸軍などについて読み込む手法によって、日露戦争後の 1907 年にハーグで開かれた第二回万国平和会議に構想が密使を派遣した時の舞台裏を世界で初めて明らかにし、また李垠と大正天皇の友情に関しても、説得力のある具体的な事例をもって紹介できた。また、俗に「政略結婚」と言われる李垠と梨本宮方子の結婚も、むしろ純愛に近い恋愛結婚としてしか見ることができないことを明らかにした。さらには、韓国では「日本の陰謀による毒殺」という説がいまだに韓国朝鮮を対象とした研究者たち（主に韓国人研究者たち）に唱えられている高宗の死が単なる脳溢血によるものであると証明した。これは、韓国朝鮮研究の盲点を突いたものであり、またどうしてもおさえておくべき内容であると自負している。詳しくは、「4.　研究成果」で述べるが、

４．研究成果

本研究の成果として、まずは作品社から研究書を出すことが出来たことを上げねばなるまい。本研究で科学研究費に応募した段階ですでに李垠研究はスタートしていたので、研究助成がはじまる直前の 2019 年 3 月に 1897 年から 1912 年までの李垠の評伝を、2 冊に分けて作品社から上梓できたことが挙げられる。

そして、2022 年にはその続巻である『李氏朝鮮最後の王 李垠 大日本帝国（大正期）』をやはり作品社から出版できた。これは、本研究による成果だと自負している。さらに、李垠票田の最終巻である『李氏朝鮮最後の王 李垠 敗戦前後日本／大韓民国』の原稿も順調に進んでおり、それも成果として挙げることが出来る。この最終巻の内容こそが、本研究課題のもっとも核となる

部分だが、まだ公開されていないのは遺憾だ。しかし、遠くない未来に、科学研究費研究課題名とか第番号を付したかたちで公刊されることは約束する。

また、2020 年には李垠の研究が評価され、国家基本問題研究所から日本研究特別賞を受賞したこともここに述べておきたい。これは民間の学術賞ではあれど、産経新聞などで大きく取りあげられており、その意味では本科学研究費研究課題が社会に注目される機会となったと自負している。

さらに、『「令和マンションブーム」から考える日本の住宅論 ： 日本社会にとっての「家」』という本を関西学院大学出版会から出版したことにも触れよう。これは一見すると本研究とは無念のように思える本だが、1938 年に起こった阪神大水害や敗戦後の住宅難など細かな生活情報が入っており、特に敗戦前のエアー・コンディショニング（空気調和）事情にも触れている。これは現在のエアコン・空調の語源となる言葉で、要するに敗戦前の日本の国会や宮中にエアコンがすでにあったことを明らかにしている。日本がポツダム宣言受諾を決めた真夏の御前会議も、このエアコンの効いた快適な空間で行われていたことわかる、関節的にではあるが意味のある研究だったと自負している。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計10件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　8件）

１．著者名 李建志	４．巻 66
２．論文標題 書評 尹紫遠／宋恵媛著『越境の在日朝鮮人作家 尹紫遠の日記が伝えること 国籍なき日々の記録から難民の時代の生をたどって』（琥珀書房、2022年）	５．発行年 2024年
３．雑誌名 比較文学	６．最初と最後の頁 129-134
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 李建志	４．巻 141
２．論文標題 <研究ノート>火野葦平と北朝鮮(3) ：「北鮮旅日記」翻刻と小説「板門店」「北鮮女性点描」	５．発行年 2023年
３．雑誌名 関西学院大学社会学部紀要	６．最初と最後の頁 73-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 李 建志	４．巻 21
２．論文標題 梨本宮家とスペイン風邪 ： 梨本宮方子女王の「日記」から見えてくるもの	５．発行年 2022年
３．雑誌名 東アジア比較文化研究	６．最初と最後の頁 92－111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 李 建志	４．巻 139
２．論文標題 闘球盤とカロム－『李氏朝鮮最後の王 李垠［大正期］』補遺	５．発行年 2022年
３．雑誌名 関西学院大学社会学部紀要	６．最初と最後の頁 75－86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 李 建志	4．巻 139
2．論文標題 <研究ノート>火野葦平と北朝鮮(1)：「北鮮旅日記」翻刻と小説「板門店」「北鮮女性点描」	5．発行年 2022年
3．雑誌名 関西学院大学社会学部紀要	6．最初と最後の頁 101－115
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 李 建志	4．巻 140
2．論文標題 <研究ノート>火野葦平と北朝鮮(2)：「北鮮旅日記」翻刻と小説「板門店」「北鮮女性点描」	5．発行年 2023年
3．雑誌名 関西学院大学社会学部紀要	6．最初と最後の頁 139－148
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 李建志	4．巻 132号
2．論文標題 「在日朝鮮人」とは誰のことか―台湾淡江大学での実践例	5．発行年 2019年
3．雑誌名 関西学院大学社会学部紀要	6．最初と最後の頁 13－19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 李建志	4．巻 23号
2．論文標題 三つの「オールド・ボーイ」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 言語と文化	6．最初と最後の頁 67－78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 李建志	4．巻 134号
2．論文標題 李垠光臨台湾	5．発行年 2020年
3．雑誌名 関西学院大学社会学部紀要	6．最初と最後の頁 11－20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 李建志	4．巻 23号
2．論文標題 研究ノート　台中不敬事件	5．発行年 2020年
3．雑誌名 関西学院大学言語教育研究センター研究年報	6．最初と最後の頁 107－113
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計2件

1．著者名 李建志	4．発行年 2022年
2．出版社 作品社	5．総ページ数 592
3．書名 李氏朝鮮　最後の王　李垠　第三巻	

1．著者名 李建志	4．発行年 2024年
2．出版社 関西学院大学出版会	5．総ページ数 160
3．書名 「令和マンションブーム」から考える日本の住宅論 ： 日本社会にとっての「家」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関